

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
92	川崎市立 東菅小学校	栃木 達也

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで学習する子(かしこく)</li> <li>・思いやりがあり、協力する子(やさしく)</li> <li>・元気でたくましい子(たくましく)</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 支援教育の充実</li> <li>2 キャリア在り方生き方教育の推進</li> <li>3 確かな学力の育成</li> </ol>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
めざす子ども像の具現化	①自ら学び、自分を振り返る子の育成を図る	子どもたち自ら「学びたい」という気持ちを持てるよう、各学年で具体的な手立てを取ってきた。また自分の学びのゴールの姿など見通しをもたせながら、「学んで終わり」でなく「自分の学びを振り返る」ことで、自己の成長に気付かせる、学んだことのよさを味わわせる、その都度どのような振り返りを行うことが子どもの成長につながるかを考えながら取り組んできた。	「振り返り」については、次の授業に生かし切れていない状況もあり、教職員間で校内研究などで情報共有し、活用を深めていきたい。GIGA端末を活用しながら、自分で課題を選択して学習を進める授業スタイルに挑戦することも進めていきたい。
	②違いを認め、人から学ぶ子の育成を図る	協働的な学びの実現のために、ペアやグループ活動などを積極的に取り組み、相手との考えの違いに気づかせることにつながった。各教科等での考え方の共有、グループで行う係活動や実行委員の実践の主体的な取組により、肯定的な雰囲気づくりができた。相手の立場に立つよう指導を続けているが、まだ実感が伴わない児童や、感情をうまく伝えられないことからのトラブルもある状況。	他者を受け入れる学習の土台としてのスキルを磨いていくことが必要となっている。道徳や共生・共育の充実を図る。総合的な学習の時間のプロジェクトで協働的なグループ学習を取り入れ、自信がなくても意見を伝えられる機会を大切にしていく。教師が学習形態の工夫や新たな試みを進めていくことで、自分の学びへ活かせる子どもを育てていきたい。
	③前向きに考え、学校をつくる子の育成を図る	一人一人が「学校(という社会)をつくる一員」という意識をさらに高めていく。「自分の意見でみんながすっきりした」「自分が発言したら、みんなが認めてくれた」等、みんなのために貢献できた自己有用感をすべての児童に味わわせることで、自己肯定感を高めていく。	当番活動や係活動など、学級のために与えられた自分の役割を果たす経験を多く設定することで、児童の「できた」「がんばれた」という自己有用感の醸成に努めた。委員会・クラブ活動や運動会・ふれあいまつりなどの行事をとおして、高学年が学校を引っ張っていくんだと気持ちを高めることができた。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
今年度の重点への挑戦	①支援教育の充実を図る(安全・安心な学校) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級での学びを充実させるための意見交換および連携の推進(チーム〇学年、チーム教職員)</li> <li>・取り出し、入り込みによる個に応じた支援の充実(GIGA端末の有効活用)</li> <li>・安心して学校生活を送るための子どもの声への傾聴および教育相談の充実</li> </ul>	学級の実態把握として、アセスメント調査を複数回行い、各学級・各学年、支援教育コーディネーター、専科教員等での情報共有を継続してきたことから、変容時の対応をスムーズに行えることが多くなった。トラブルの未然防止にもつながった。保護者面談をとおして、取り出し支援、入り込み支援など、個に応じた支援の充実に努めてきた。	個別の支援支援については、担任と保護者の方と連携・協力を図りながら、支援教育コーディネーターを中心に進めてきたが、今後もこれまでの支援を継続し、誰一人取り残さないよう視野を広げた支援を行っていく。
	②キャリア在り方生き方教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年・学級活動における、実行委員などの役割の充実(やりがい)</li> <li>・互いの考えのよさへの気付きや自分の考えへの取入等による、共生・協働の精神の醸成(GIGA端末の有効活用)</li> <li>・体験活動を重視し、体験から生まれた気付きを発信・表現する活動の充実</li> </ul>	体験活動を多く取り入れ、体験から生まれた気付きを発信・表現する活動を充実させることで、実行委員を中心に子どもたちの責任感が高まってきたと実感している。また、生活科で見つけたものを国語科の学習を活かして発表するなど、教科等横断的な学習の実施によって、表現活動を充実させる事例も増えたことができた。	1月のふれあいまつりについては、今年度保護者の参加もできるようにしたため、子どもたち・地域・保護者とのふれあいが深まり、多くの人に見てもらうことで、子どもたちの意欲にも変化がみられた。生き生きと楽しそうに表現・発信する姿から教育効果を感じ、今後も新しい試みを検討していきたい。
	③確かな学力の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、子どもを主語とした学習環境の充実にむけた授業研究を進めている。</li> <li>・かわさきGIGAスクール構想推進に向け、校内教職員間での情報共有や、推進校等の授業参観・動画の視聴等により積極的に挑戦をしようとしている。</li> <li>・各学年で地域人材を活用したカリキュラムの充実に努めている。</li> </ul>	子どもを主語とした学習環境の充実のために、子どもの学力の実態把握に努めてきた。GIGA端末については、教員側の活用が昨年度よりも積極的になり、子どもたちも学習活動や特別活動の場面でも積極的に活用しようとしている。GIGA活用の学校全体の底上げや、地域人材を活用したカリキュラムの継続的実施が課題となっている。	GIGA端末の活用については、他校の実践事例から学び積極的に導入していきたい。また、教材研究にもGIGA端末を活用した子ども主体の授業について、さらに各学年で深めていきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と保護者のアンケートの結果から、学校への信頼と期待は大きいとの評価をいただいている。教職員の取組や児童のアンケートの結果から、3つのめざす子ども像の具現化に向けて、子どもたちに働きかけ気持ちを育ててきていることがうかがえる。</li> <li>・学校での子どもたちの活動の様子を、さらにわかりやすく伝えるために、検討を続けていってほしい。</li> <li>・全国的な教員の不祥事による信頼の回復については、学校が具体的な対策を取っていることがわかったが、今後も継続して未然防止に取り組んでいってほしい。</li> <li>・今年度保護者の参観ができるようになった「ふれあいまつり」については、子どもたちの学習の発信の意欲が高まり、保護者にも意欲的に表現する様子が伝わり、効果的であったのではないかと。地域のブースにも子どもたちと地域、保護者とのふれあいの機会となり、名前の通りふれあいが生まれるイベントとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の定期的な研修により、「チーム学年」の連携を密にしなが、学校教育目標の具現化に向け定期的に取り組んだ内容について振り返ることができた。</li> <li>・重点目標に地域との連携やキャリア在り方生き方教育における地域との関わりを掲げ、教育課程の充実のため学校運営協議会でご意見をいただけるよう進めてきた。地域人材の活用や地域への発信の方法についてはまだ課題があることから、今後も課題について共有しながら、地域と共に子どもたちを育てていけるよう連携を図っていききたい。</li> <li>・ふれあいまつりについては、今年度からの保護者の参加により子どもたちの意欲の向上が見られたため、今後も発信・表現する活動の意義を教職員で再確認し、内容を検討していきたい。</li> <li>・GIGAスクール構想の推進については、児童の活用は進んでいるものの、学校全体での活用の重点を設定していないため、今後本校での推進方法について協議を進めていきたい。</li> </ul>